



## 注意

- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。使用時には、著作権へのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねます。
- このファイルに掲載されている画面は、すべて操作説明のためのものです。実際の画面と異なる場合があります。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacまたはMacintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- SteinbergおよびCubaseは、Steinberg Media Technologies社の登録商標です。
- その他、このファイルに掲載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

MODX Connectを使用するために必要なコンピューター環境、機器の接続、MODX Connectのインストールについては、別冊のリリースノートおよび本体の取扱説明書をご参照ください。

## MODX Connectとは

MODX Connectは、コンピューターとMODX/MODX+間でデータの送受信をするためのソフトウェアです。MODX本体\*に録音したソングをコンピューターに転送してDAWソフトウェアで編集できます。MODX本体で編集したパフォーマンスデータをコンピューターにファイル(.X8B)として保存できます。

MODX Connectは、Steinberg社が提唱する「VST3テクノロジー」に対応しており、Cubaseシリーズ上でVST3プラグインとして使用できます。Cubaseシリーズ上では他のVSTインストゥルメントと同様に使えます。編集した内容をCubaseのプロジェクトファイル(.cpr)に保存できます。

MODX Connectは、AUプラグインにも対応しています。対応するDAWソフトウェアはリリースノートをご参照ください。

MODX Connectはスタンドアローンでも動作します。

\*MODX Connectは、MODXとMODX+どちらにもお使いいただけます。MODX+をお使いの場合は、本書の説明の中で、「MODX本体」を「MODX+本体」に読み替えてください。

# MODX Connectのデータ構成

MODX Connectは、下記のデータをファイルとして保存できます。

- ・ パフォーマンスのカレントデータ(エディットの最新状態): .X8Bファイル

カレントデータは、各パートのパン、ボリューム、エフェクトなどのミキシング設定だけでなく、各パートのコモンエディットやエレメント/オペレーター/ドラムキーエディットの状態も含んでいます。

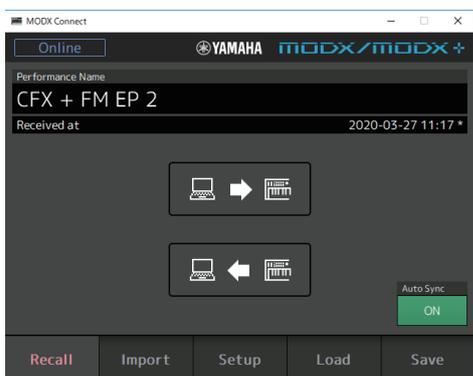
MODX Connectは、下記のデータをコンピューターにインポートすることができます。

- ・ ソングデータ: スタンダードMIDIファイル(.MID)
- ・ パターンデータ: スタンダードMIDIファイル(.MID)

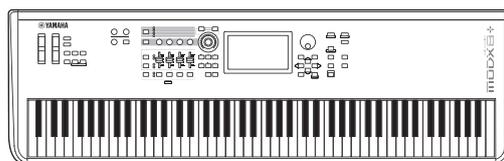
MODX ConnectをDAWソフトウェアのプラグインとして使った場合、パフォーマンスのカレントデータ、ソングデータとパターンデータをひとつにプロジェクトファイルにまとめて保存することができます。保存したプロジェクトファイルを再度読み込めば、MODX/MODX+本体の状態を再現することができます。

MODX/MODX+とMODX Connect間でやりとりされるデータ/ファイルおよびその流れについては、下図を参考にしてください。

## リコール画面

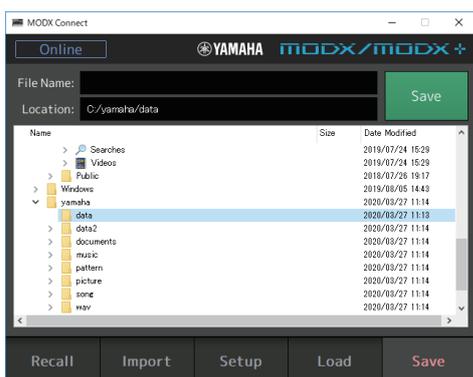


送信ボタン/受信ボタンをクリックすることで  
バルクダンプ送受信

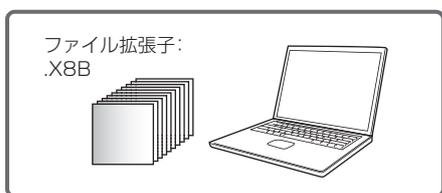


\* MODX/MODX+本体とMODX Connect (コンピューター)が  
正常にUSB接続されている場合(オンラインの場合)に限ります。

## セーブ画面/ロード画面



Save/Loadボタンをクリックすることで  
ファイル(.X8B)の保存/読み込み

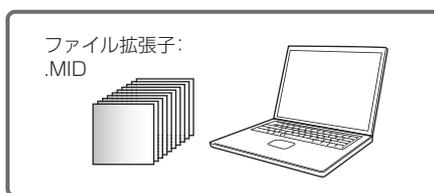


パフォーマンスデータ

## インポート画面



ソングやパターンをドラッグ&  
ドロップすることでインポート



ソングデータやパターンデータ

# ウィンドウ各部の名称と機能

## 共通部

MODX Connectには、Recall (リコール)画面、Import (インポート)画面、Setup (セットアップ)画面、Load (ロード)画面、Save (セーブ)画面の5つがあります。

ここでは全画面で共通に表示されるバーやタブについて説明します。



### ① Online (オンライン)インジケータ

MODX ConnectとMODX本体の接続状態を表示します。

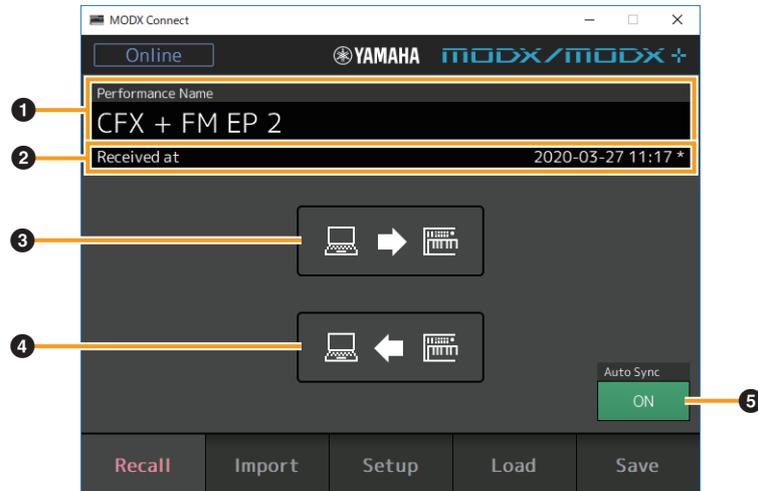
- **Online:** MODX ConnectとMODX本体が通信できる状態です
- **Not Ready:** MODX ConnectとMODX本体の通信ができない状態です。MIDIポートの設定やケーブル接続は正しく行なわれていません。MODX本体がコンペア中の場合や、ファイル(.X8B)のセーブ/ロード中の場合にも表示されます。
- **Offline:** MODX ConnectとMODX本体の通信ができない状態です。MIDIポートの設定やケーブル接続が正しく行なわれていません。

### ② 画面選択タブ

クリックした画面が開きます。

# Recall (リコール)画面

リコール画面では、MODX本体とMODX Connect間でパフォーマンスデータの送受信を行いません。



## ① Performance Name (パフォーマンスネーム)

選択中のパフォーマンスネームが表示されます。

MODX本体からパフォーマンスデータを受信するか、ロード画面でファイル(.X8B)を読み込むと更新されます。

## ② 受信日時

最後にMODX本体からパフォーマンスデータを受信した日時を表示します。

**NOTE** MODX本体からパフォーマンスデータ受信後、ファイル(.X8B)が保存されていない場合にはフラグが表示されます。

## ③ 送信ボタン

クリックすると、現在選ばれているパフォーマンスのデータをMODX本体に送信(バルクダンプ)します。  
オンライン状態の場合だけ有効となります。

## ④ 受信ボタン

クリックすると、MODX本体で現在選ばれているパフォーマンスのデータを受信(バルクダンプ)します。  
オンライン状態の場合だけ有効となります。

## ⑤ Auto Sync (オートシンク)ボタン

MODX本体とMODX Connect間のパフォーマンスデータ送受信を自動的に行なうかどうかを設定します。

Onにすると、ファイル(.X8B)読み込み後、パフォーマンスデータをMODX本体へ送信します。また、ファイル(.X8B)を保存する前にMODX本体からパフォーマンスデータを受信します。

設定値: Off、On

# Import (インポート)画面

インポート画面では、MODX本体にストアされているソングやパターンを一覧表示し、コンピューターやDAWソフトウェア上にインポートすることができます。



## ① ソングセレクト/パターンセレクト

MODX本体に保存(ストア)されているソングやパターンの一覧を表示します。

ソングやパターンをコンピューターやDAWソフトウェア上にドラッグ&ドロップすると、スタンダードMIDIファイル(SMF)としてインポートすることができます。オンライン状態の場合だけ有効となります。

## ② Sort (ソートオーダー)

ソングやパターンのソート順を設定します。

オンライン状態の場合だけ有効となります。

- **Name:** 名前順にソートします。矢印が下向きの場合は昇順(A→Z)、上向きの場合は降順です。
- **Date:** ストアされた順にソートします。矢印が下向きの場合は降順(新→旧)、上向きの場合は昇順です。
- **Number:** ソングやパターンを番号昇順にソートします。

## ③ Song Pattern (ソングパターンセレクト)

インポート画面の表示を設定します。

- **Song:** ソングを表示します。
- **Pattern:** パターンを表示します。

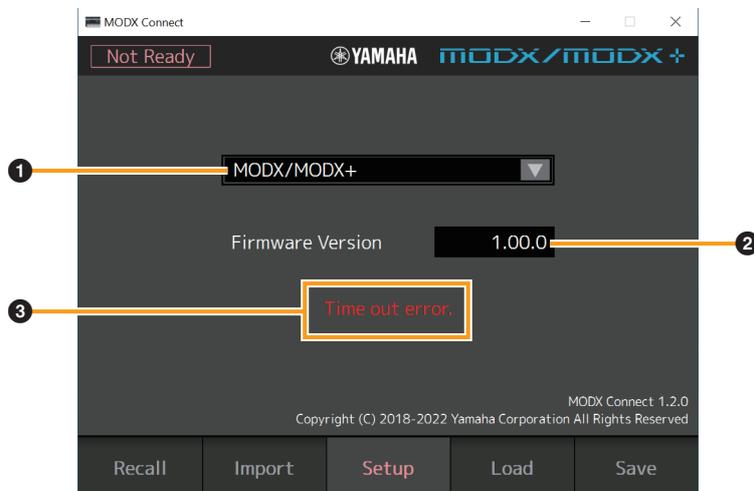
## ④ Update Song List (ソングリスト更新)/Update Pattern List (パターンリスト更新)

MODX本体からソングリストやパターンリストを取得し直します。

オンライン状態の場合だけ有効となります。

# Setup (セットアップ)画面

セットアップ画面では、MODX Connectが通信するデバイスとの設定を行ないます。



## ① デバイスセレクト

MODX Connectが通信するMODX本体を選択します。  
本体が見つからない場合は「No Assign」だけが表示されます。

## ② Firmware Version (ファームウェアバージョン)

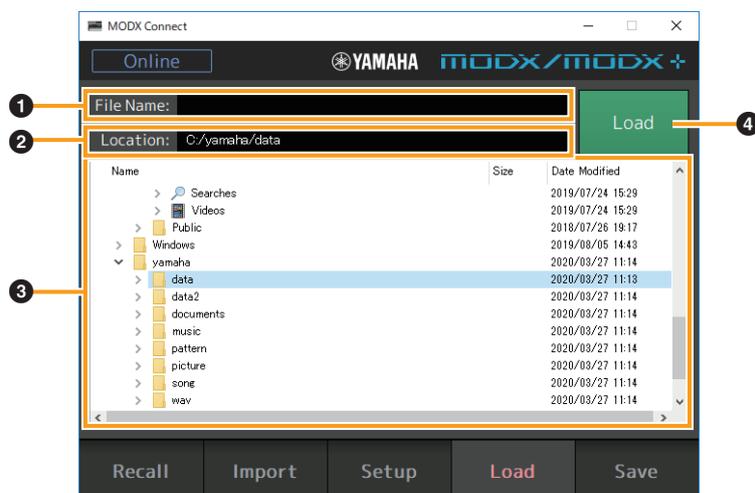
MODX本体のバージョンを表示します。

## ③ エラーメッセージ

エラー発生時にメッセージが表示されます。

# Load (ロード)画面

ロード画面ではコンピューターに保存されたファイル(.X8B)の読み込みを行ないます。



## ① File Name (ファイルネーム)

ファイルリスト内から選択したファイルの名前が表示されます。ファイル名を直接入力することもできます。

## ② Location (ロケーション)

選択中のフォルダー名を表示します。フォルダー名を直接入力することもできます。

## ③ ファイルリスト

コンピューター内のフォルダーとファイルをツリー表示します。ここからロードするファイル(.X8B)を選択します。

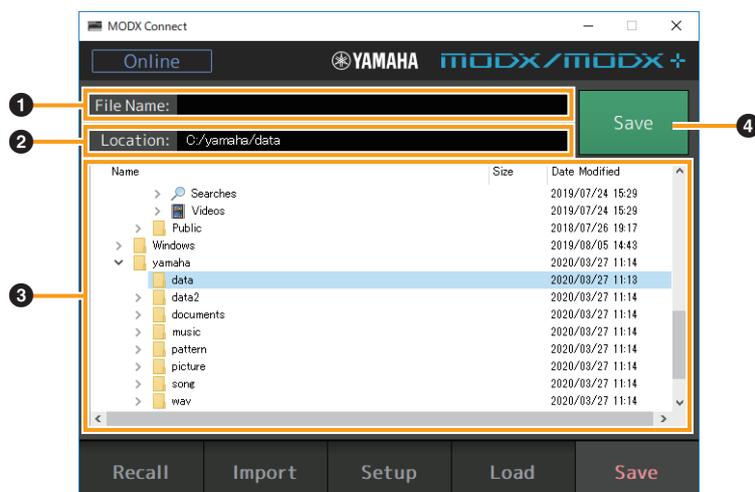
## ④ Load (ロード)

クリックすると選択中のファイルを読み込みます。

オンライン状態かつ「Auto Sync」(4ページ)が「On」のとき、ファイル読み込み後にパフォーマンスデータをMODX本体へ送信します。

# Save (セーブ)画面

セーブ画面ではMODX本体から受信したパフォーマンスデータをファイル(.X8B)としてコンピューターに保存します。



## ❶ File Name (ファイルネーム)

ファイルに名前をつけて保存します。

## ❷ Location (ロケーション)

選択中のフォルダー名を表示します。フォルダー名を直接入力することもできます。

## ❸ ファイルリスト

コンピューター内のフォルダーとファイルをツリー表示します。すでにあるファイルを上書きする場合は、ここからセーブ(保存)するファイルを選択します。

## ❹ Save (セーブ)

クリックすると、ファイルをセーブ(保存)します。同じ名前のファイルがすでに存在している場合は実行を確認するダイアログ画面が表示されます。

オンライン状態かつ「Auto Sync」(4ページ)が「On」のとき、ファイルを保存する前にMODX本体からパフォーマンスデータを受信します。

# MODX Connectの操作の流れ

MODX Connectの使い方には、決まった操作手順はありません。  
次のような操作の流れを参考に、目的に合った作業を行なってください。

## MODX本体で録音したソングをDAWソフトウェアで編集する

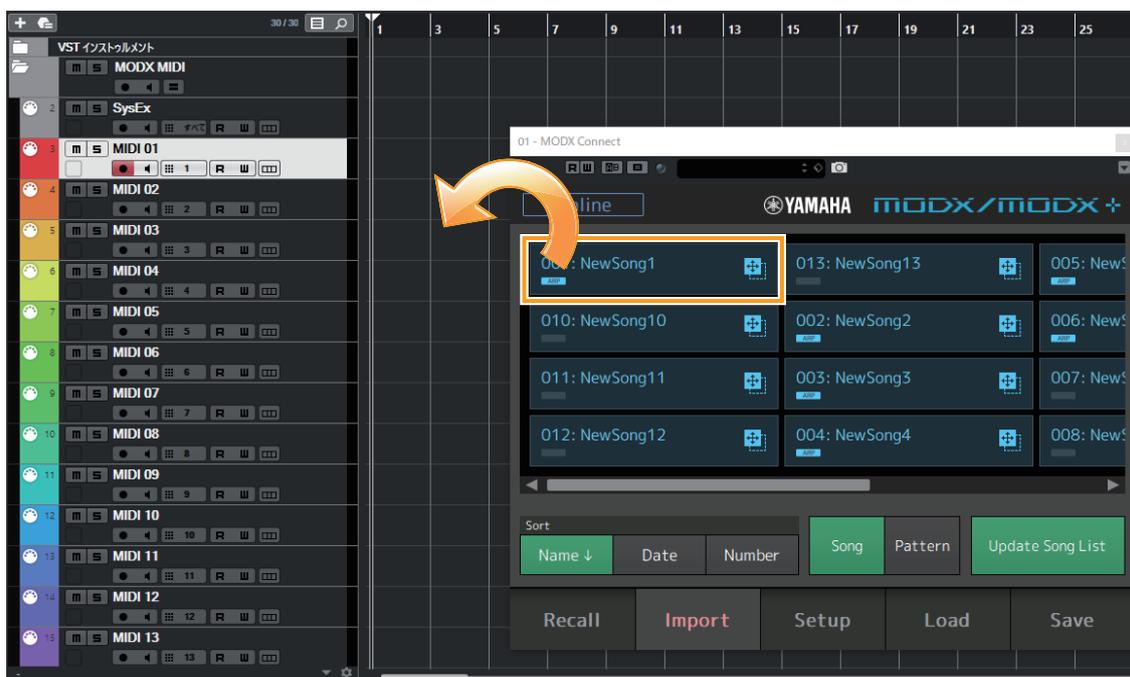
MODX本体のパフォーマンスレコーダー (簡易シーケンサー) を使って録音したソングをコンピューターに転送し、DAWソフトウェアで編集します。ここでは例としてCubaseを使用する方法を説明します。

事前にCubaseシリーズ、Yamaha Steinberg USBドライバーをそれぞれのインストールガイドに従ってインストールしてください。その後、コンピューターと本体をUSBケーブルを用いて接続し、本体のMIDIメッセージの入出力先を設定してください。

**NOTE** 本体とコンピューターとの接続について詳しくは、MODX本体の取扱説明書の「コンピューターと接続して使う」をご参照ください。

**NOTE** 本体は[UTILITY] → [Settings] → [MIDI I/O]で「MIDI IN/OUT」を「USB」に設定してください。

1. MODX本体でソングを録音します。  
**NOTE** ソングの録音方法について詳しくは、MODX本体の取扱説明書の「録音/再生する」をご参照ください。
2. Cubaseを起動します。
3. 新規のCubaseプロジェクトを作成します。
4. (ソングのトラック数に応じた数の)空のMIDIトラックを追加します。
5. Cubaseの[デバイス]メニューから[VSTインストールメント]を開きます。
6. VSTインストールメントトラックのインストールメント スロットをクリックして、[MODX Connect]を選択します。
7. MODX Connectのインポート画面を開き、手順1で録音したソングをイベントディスプレイ上にドラッグ&ドロップします。  
スタンダードMIDIファイル(SMF)としてインポートされます。

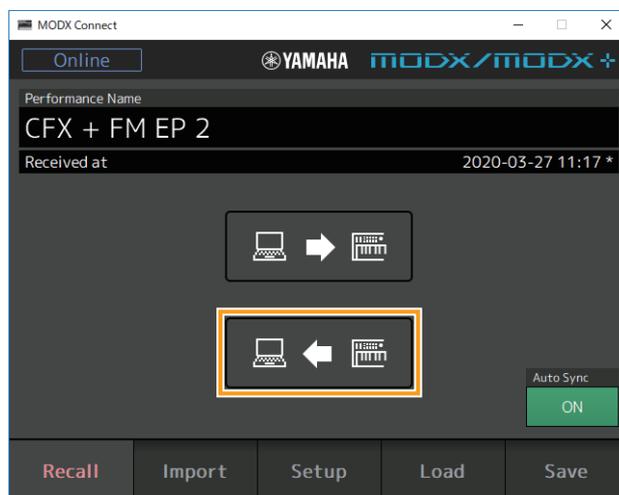


8. Cubase上でMIDIデータを編集します。

## 9. 編集が終わったら、MODX Connectのリコール画面を開き、受信ボタンをクリックします。

MODX本体で現在選ばれているパフォーマンスのデータを受信(バルクダンプ)します。

**NOTE** MODX Connectの「Auto Sync」が「On」に設定されている場合は、手順10のタイミングで自動的にMODX本体のパフォーマンスデータを受信するため、この手順は必要ありません。



## 10. [ファイル]メニューから[名前を付けて保存]または[保存]をクリックして、Cubaseのプロジェクトファイルを保存します。

MIDIデータとパフォーマンスデータがまとめてプロジェクトファイルに保存されます。次回、同じファイルを開くとMODX Connectを使ってMODX本体のパフォーマンス設定を再現できるようになります。

**NOTE** MODX Connectの「Auto Sync」を「On」に設定していると、ファイルを開くと自動的にMODX本体にパフォーマンスデータを送信します。

## 11. Cubaseを終了します。

# 困ったときは(トラブルシューティング)

---

正常に動作しない場合、まずMODX本体とコンピューターとの接続を確認したあと、以下の項目をチェックしてください。

## バルクデータの送受信ができない

- MODX Connectはオンラインになっていますか？
- Online (オンライン)インジケータは「Online」表示になっていますか？  
「Online」表示されていない場合、通信設定に問題があるかもしれません。MODX Connectのデバイス設定(6ページ)や、MODX本体側のMIDI通信設定([UTILITY] → [Settings] → [MIDI I/O]で「MIDI IN/OUT」を「USB」に設定)、またはケーブルの接続が正しく行なわれているかを確認してください。

## オンラインにならない

- MODX本体が接続されているか、または電源がオンになっているかを確認してください。
- Windows環境の場合は、他のアプリケーションがコンピューター上のMIDIポートを使用している可能性があります。他のアプリケーションを終了してください。また、MIDIポートを使用しているアプリケーションがMIDIポートを使用したまま正しく終了しなかった可能性があります。コンピューターを再起動してください。
- MODX本体のファームウェアを最新にバージョンアップしてください。

## Time out errorメッセージが表示される

- MODX本体からの応答がない場合に表示されるメッセージです。MODX本体側のMIDI通信設定([UTILITY] → [Settings] → [MIDI I/O]で「MIDI IN/OUT」を「USB」に設定)を確認してください。